

令和4年度 北海道本別高等学校 学校評価のまとめ

	本校の経営方針及び 指導上の重点事項	自 己 評 価			学校運営協議会評価	
		主な成果と課題 (● 課題印)	R 4	R 3		改善の方策 (● 課題解決)
学校経営	<p>学校運営協議会との協働により、高校と地域が一体となった特色ある教育活動を推進する。</p> <p>① 教科科目の授業や探究活動を通して、問題解決能力、創造力、主体的行動力の育成を図る</p> <p>② 学習評価に関する研究を推進し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>③ 進路意識の高揚を図り、主体的に進路探究に取り組む態度の育成を図る。</p> <p>④ 教育課程全般を通して、協働的、コミュニケーション能力、遂行力の育成を図る。</p> <p>⑤ 生徒が安心して学べる環境の維</p>	<p>○本校の現状と課題及び教育動向等を踏まえた学校経営方針及び目指す学校像を示し、教職員の共通理解の促進に努めた。 <b>※ 学校評価 R3: 3.3 → R4:3.4</b></p> <p>○校内研修を実施して各教科毎の学習評価の方向性を示した。</p> <p>○生徒個々の進路実現に向けた個別指導、主体的な学びに向けた取り組みを促す取組が始まり、進路結果につなげる必要がある。</p> <p>○教職員が全生徒の状況について、情報共有し、困り感を抱えている生徒に対して、保護者、S C及び関係機関と連携し支援した。</p> <p><b>●CSコーディネーターの地域と学校を繋ぐ役割が重要である。</b></p>	3.4	3.3	<p>・地域資源を活用した活動(コミュニティ・スクールの3部会や地域連携特例校)への理解を図りながら、高校の魅力化・特色化の推進。</p> <p>・学校規模に応じた教育活動の実施(外部指導者、学習支援員、C S推進員の雇用と活用)</p> <p>・学校H Pや学校通信「燦々と燃ゆる陽」での広報活動を継続</p> <p>・学習評価の適切な実施</p> <p>・模試の事前事後指導、「まなびの部屋」の活用や通信などによる取り組みの活性化を図る。</p> <p>・S Cや地域の関係機関との情報共有、活用と支援 <b>●CSコーディネーターとの連携・協働が不可欠である。</b> <b>令和5年度は地域と学校を繋ぐ役割を強化。</b></p>	<p>・総合的な探究の時間『とかち創生学』の取組は、新たな課題設定が発展的で素晴らしい。生徒の活動がついて行くか課題もあるが、この取組によって確実に力がついている。</p> <p>・情報発信については、ホームページ掲載以外の方法を考える必要がある。広報誌への各種事業の掲載や折り込みなど、町民が触れる機会の多い媒体を有効活用するとよい。</p> <p>・探究活動の他にも、コーディネート機能が必要な事業がある。日常的な連携が必要となる。</p>
学習指導	<p>① 生徒個々の特性に応じた指導や支援を行う。</p> <p>② 基礎的・基本的な知識を着実に獲得させる。</p> <p>③ 授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。</p> <p>④ 探究活動を通して、課題を解決し新たな価値を創造する力を育成する。</p> <p>⑤ 国際交流を通して、英語力とともに国際的な視野を育成する。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症に係る欠席生徒への授業配信など学びの保障を実施した。</p> <p>○基礎的・基本的な知識を習得させる個別指導を行うなど、一人ひとりの生徒の学習状況を捉えながら指導が進められている。</p> <p>○I C Tを活用した授業が一部実施されている。</p> <p>○継続して探究コーチの支援を得て成果をあげているが、より地域と密着した活動しとなるようR 5実施計画進めている。</p> <p><b>●令和4年度、十勝管内で唯一国内研修代替措置を実施した。参加者希望者が2年生10名と低調であったが、参加した生徒にはよい学びの機会となった。</b></p>	3.1	3.1	<p>・教育課程の適切な管理と恒常的な検証</p> <p>・授業研究と授業実践の公開(魅力ある授業展開)</p> <p>・B Y O Dに伴い、I C T活用の促進と個別最適な学びの推進</p> <p>・年間計画に基づく確実な実施と探究コーチの支援</p> <p><b>●海外研修実施の決定・周知・応募期間等を工夫し、さらに授業など多くの機会を通じ研修の意義や目的を伝え、積極的参加を働きかける。</b></p>	<p>・英語教育に関しては、小学校低学年時からの取組とその継続性が重要である。英語に親しむ環境を町教委も協力してつくり、中高の教育と連結できないか。</p> <p>・町教委の人的支援が生徒の活動を支えている。来年度の探究テーマも非常に興味深いものとなっている。活動を継続してほしい。</p> <p>・国内代替研修は、非常によい取組である。英語を話せることで世界が広がることを実感できる貴重な機会となった。</p>
生徒指導	<p>① 「地域から信頼される」生活態度や生活習慣の形成を目指す。</p> <p>② 生徒が安心して学べる「いじめ」のない健全な学習環境を形成し維持する。</p> <p>③ 生徒会活動を充実させ、主体的に行動できる生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒、保護者、教員の三者協議による校則の見直しを行う。</p>	<p>○集会時における生徒指導部による講話や、生徒指導部だよりなどにより、自己指導力の育成が行われている。</p> <p>○S CやS S Wとの連携を図った教育相談をもとに、教育支援委員会がなされ、生徒理解の促進及び支援がなされている。</p> <p>○いじめ防止基本方針に沿い、いじめ防止委員会を開催するとともに、職員全体で情報共有するなどいじめや問題行動等の防止に努めた。</p> <p>○学校祭では限定一般公開や3学年合同の演劇、クラスによる合唱など実施したり、体育大会などコロナ感染症対策を講じながら、生徒の主体的な活動となるよう努めた。</p> <p>○帯広柏葉高校との生徒会交流を2回(12月、2月)実施するなど自主的な活動がなされた。</p> <p>○コロナ対応、長期休業中の生活など安全行動に関する注意喚起のほか、生活全般の注意を促す文書をHPに掲載したり配付するなど家庭との連携を図り事故防止に努めた。</p> <p>○教員や外部指導者の協力のもと、生徒会、H Rや部活動などが行われており、生徒の自主的・自発的な活動が促されている。</p> <p><b>※ 部活動加入率R3: 88%→R4: 96%(延べ)</b></p>	3.2	3.1	<p>・生徒情報の共有化、関係機関、家庭と連携した継続的な生徒理解と生徒及び保護者の支援</p> <p>・S CやS S Wや外部の関係機関との連携と教育相談の体制の強化(定期的な教育支援委員会)</p> <p>・いじめ防止基本方針に基づいた指導の徹底</p> <p>・主体性を育む生徒会活動の実践</p> <p>・令和5年度は学校祭の交流等の検討</p> <p>・継続して生徒事故に対する自己指導能力の育成</p> <p><b>●部活動外部指導員の人材確保と連携</b></p>	<p>・生徒が安心して、いじめ等の不安がなく学校生活を送ることができていることは高く評価できる。</p> <p>・生徒の活躍を外部へ発信したり、生徒が外部へ出ていく機会を増やしたりしてほしい。</p> <p>・講習をはじめ、地域連携特例校となったこと十分に活用した教育活動は評価できる。今後も継続してほしい。</p> <p>・生徒、教職員ともに安全に対する意識が高いことがわかる。</p> <p>・例えば、運動部を「オール部」という形で季節ごとに別のスポーツをするような、新たな部活動のあり方を模索してもよいのではないかと。</p> <p>・部活動は、生徒のコミュニケーション能力を高めたりいじめ防止になったりと、よい面がいろいろとある。</p>
進路指導	<p>① 早期から生徒の状況に対応した個別の進路指導を実施し、進路意識の向上と進路の実現を図る。</p> <p>② 進路の実現に向けて、講習の受講、模擬試験、資格取得の受験に積極的に取り組ませる。</p>	<p>○進路に対応した個別指導がなされており、更に、進路情報についての提供に努めた。</p> <p>○就職・進学ガイダンスに積極的に参加を促すなど就職指導の充実に努めた。</p> <p><b>●進路希望に応じた指導体制の充実に努めていく必要がある。</b> <b>※ R4進路決定状況:大学・短大6名、専門学校14名、就職6名・公務員1名</b></p>	3.0	3.2	<p>・キャリア教育の全体計画の作成と計画に基づいた取組の推進(総合的な探究の時間、特別活動、及教科科目との連携の検討)</p> <p>・定期的な進路希望把握と指導の一体化</p> <p><b>●主体的な学びを促すため、放課後の「まなびの部屋」の活用方法や支援を充実させる必要がある。</b> <b>(模試の事前事後指導、I C T活用した学びなど)</b></p>	<p>・小中学校との進路活動をはじめとする連携については、町村では他に類を見ないほど、密接である。高校生と交流したり進路学習で話を聞いたりすることで、小中学生は高校をイメージするようになり、大変助かっている。</p> <p>・生徒の進学先、就職先により意味で変化が見られるようになってきている。</p>
健康・安全指導	<p>① 教科・科目の授業、総合的な探究の時間、特別活動(H R活動、生徒会活動、学校行事)、外活動を通して、身体的・精神的に良好な状態を維持するとともに、他人とともに協調する心や、自他を尊重する心、感動する心を育成する。</p>	<p>○学校保健委員会を定期的に設け、学校医から助言をもとに、感染対策を実施した。</p> <p>○不登校など困り感を抱えている生徒への対応を、教育支援委員会で情報共有し、全教職員で対応するなど支援を継続し、安心・安全な教育活動の実施に努めた。</p> <p>○体育的行事の充実、部活動や同好会など課外活動の促進、運動に親しみ体力の向上や、協働的な活動を一層充実させる必要がある。</p>	3.3	3.4	<p>・新型コロナウイルス感染症予防の感染対策の実施</p> <p><b>●学校全体で困り感を抱えている生徒など継続した指導の必要性(不定期な面談、外部機関との連携)。</b></p> <p>・保健・安全計画及び個別の指導計画の周知徹底</p> <p>・体育健康や各種活動に関する情報提供、各部活動・同好会の充実など取組の工夫</p>	<p>・町内関係機関との連携により、生徒の家庭環境を含めた把握が可能となるため、積極的に情報交換を行いながら指導を継続してほしい。</p> <p>・週に2回程度の活動とし地域人材が関わりやすい環境にするなど、部活動等のあり方について持続可能な形を探ることも必要な時代ではないかと。</p>

※自己評価における数値は、各項目を「4・・・十分達成できている。3・・・達成できている。2・・・やや不十分である。1・・・不十分である。」で全教職員が自己評価した平均値